

# トビウオ通信 (H30 第1号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-23-4806)

## 《平成29年漁期前半の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網漁業 (かけまわし)

#### 1隻当り漁獲量・金額とも平年を下回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)42隻\*の平成29年漁期前半(平成29年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,659トン、総水揚げ金額は7億7813万円でした。1隻当り漁獲量は41トン、水揚げ金額は1,921万円で、漁獲量は平年の80%、水揚げ金額は平年の93%となりました。今漁期は時化が多く平年の8割程度しか出漁できなかつたことが漁獲量減少の大きな要因です。

\* 当漁業における島根県全体の操業隻数は43隻ですが、統計は42隻分の集計です。平年は過去10年平均。

#### ソウハチ平年並、ムシガレイ平年の6割

主要魚種であるソウハチの1隻当り漁獲量は7.2トンで前年の1.1倍、平年の1.1倍の水揚げでした。ムシガレイの1隻当り漁獲量は1.2トンで、前年の7割、平年の6割の水揚げに留まりました。また、メイタガレイの1隻当り漁獲量は0.6トンで、平年の8割の水揚げに留まりました。

#### ケンサキイカの不漁が続く、ヤリイカ減少

ケンサキイカの1隻当り漁獲量は1.2トンで前年は上回ったものの平年の4割の水揚げに留まりました。一方、ヤリイカの1隻当り漁獲量は0.8トンで、前年の2割、平年の4割の水揚げとなりました。

#### アカムツ平年並、キダイは平年の7割

アカムツの1隻当り漁獲量は1.7トンで前年並で平年並みの水揚げとなりました。また、キダイの1隻当り漁獲量は3.3トンで平年の7割、アンコウの1隻当り漁獲量は3.4トンで平年の8割、ニギスの1隻当り漁獲量は3.9トンで平年の7割の水揚げに留まりました。

#### アナゴ類・マダラは減少

その他、アナゴ類の1隻当りの漁獲量は2.0トンで、前年の6割、平年の9割の水揚げとなりました。また、マダラの1隻当りの漁獲量は2.5トンで、前年の8割、平年の7割の水揚げとなりました。

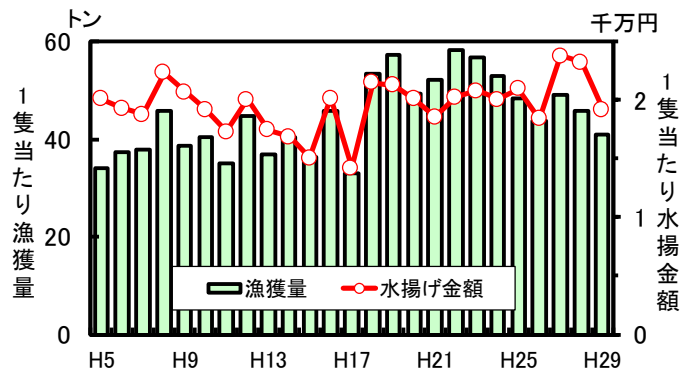


図1 小型底びき網漁業における1隻当り漁獲量・水揚げ金額の動向(9～12月)

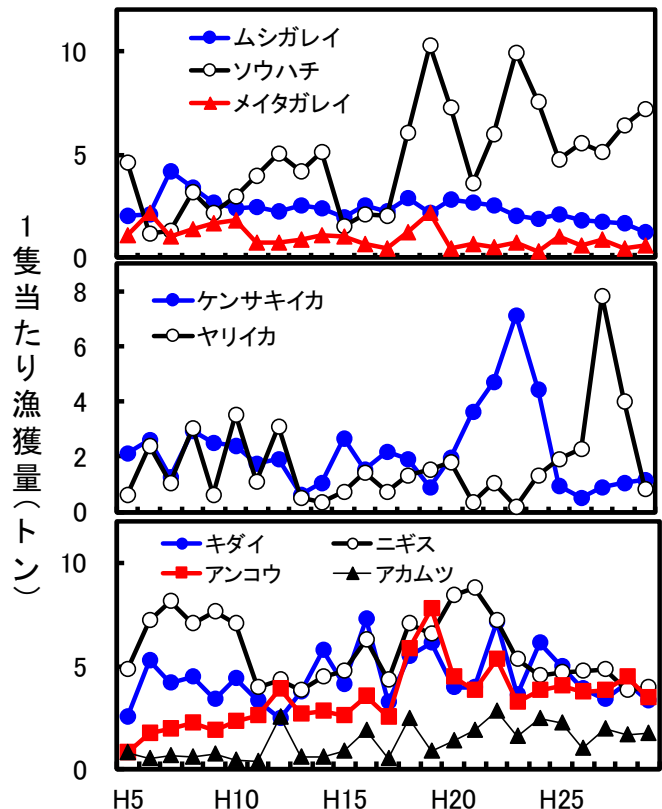


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9～12月)

## 沖合底びき網漁業（2 そうびき）（県西部）

### 1 統当り水揚量・金額 平年を上回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成29年漁期前半(平成29年8月16日～12月31日)の総漁獲量は1,672トン、総水揚金額は9億376万円でした。1統当たりでは、漁獲量334トン、水揚げ金額1億8,075万円で、平年に比べ量は8%、金額は19%上回りました(過去10年平均309トン、1億5,134万円)。

### ムシガレイは平年を下回る、ソウハチ、ヤナギムシガレイは平年を上回る

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は32トンで、前年の1.1倍、平年の7割の水揚げでした。ソウハチの1統当たり漁獲量は31トンで、前年の1.5倍、平年の1.4倍の水揚げでした。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は9トンで前年の1.8倍、平年の1.2倍の水揚げでした。

平年と比較してムシガレイは特に8～9月の漁獲が少なく、ソウハチは8～9月の漁獲が好調でした。

### ケンサキイカ不調

ケンサキイカは前年同様秋漁が低調に推移し、1統当たり漁獲量は8.8トンで、前年の7割、平年の3割の水揚げに留まりました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は4.8トンで、前年の8割、平年の1.2倍の水揚げとなりました。ケンサキイカの漁獲量は近年低調に推移しており、今期においても8～11月の漁獲が特に不調でした。

### アカムツ絶好調

キダイの1統当たり漁獲量は30トンで、前年の7割、平年の9割の水揚げとなりました。

アカムツの1統当たり漁獲量は45トンで、好調だった前年を上回り、前年の1.2倍、平年の3.2倍の水揚げとなりました。今期も前期同様に小型サイズ(メッキン銘柄)が多く、漁獲量の約7割が小型サイズでした。

その他、ニギスの1統当たり漁獲量は3トンで平年の9割、アンコウの1統当たり漁獲量は24トンで平年の1.8倍、アナゴ類の1統当たり漁獲量は25トンで平年の1.2倍の水揚げとなりました。



図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量と水揚げ金額の動向(8～12月)

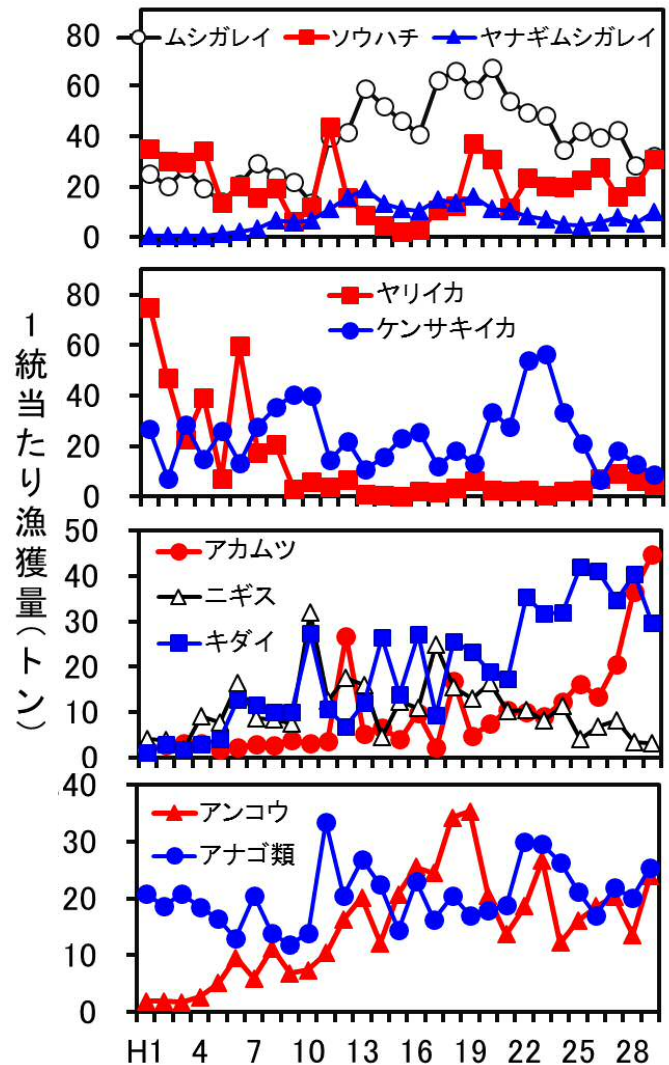


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(8～12月)